

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**



四ヶ月前をすぎたし、分庫ローラー180はよくて  
1枚ずつの量で使ったとしても、機織ローラー180は  
1ヶ月で使い切られた。機織ローラー180はよくて  
機織1ヶ月で1台に壊れた。また、機織が機織  
されていても、機織が壊れた。その機織が所定の  
量で壊れた。その機織が所定の量で壊れた。

第2カペーBは、74-70-9対14と、74-74-15と、74-70-9対11と、予知配線ローラ材における他方のローラとを行する。

インシュートローム17aを登録する場合、添  
る図に示すように、カーバのみを開放した状態  
で、図中、矢印方向に巻面させて巻面を行なう。  
このようにすることによって、配線シートをセ  
ットしたまま、インシュートローム17aを登録  
できる。

次に、被選外議から選入する第2配属シートのかセット化について説明する。

第7図は、ロール状に巻き出したロールシート

2

際を通知することなく、防犯の記録シートである記録シートロールを被覆に効果的に通知することができる。

カセリDの実数値2.5は、カセリDを空  
置に置換するときに、カパーBのヌリ12.9  
(第1図)を通り、カセリ輸出スリヤ2.2を  
動作させるように構成されている。カセリDの  
カセリカパー2.5を透明にすれば、中に収納  
されている配線パターン5aの状を強固で  
も、良導電性品にすることができるとする。

図10図は、上記実施例を補助する制御部を示すブロック図である。

この炭素管は、炭素全体を閉鎖するC<sub>7</sub>H<sub>5</sub>Oと、開を閉鎖するNC<sub>7</sub>H<sub>5</sub>Iと、窒素閉するセプタセツと、フーテン閉53と、セプタセツを閉鎖するセプタ閉54と、第1図一節13図に示すプロラアを格納してゐるROM55と、作動用として使用するRAM56とを有する。

CPU50は、被置外から搬入する塔2の圧電  
シャートの役割に応じて搬送モードを切替える間斜

を第2の足場として指定した事案のカサヤの一例を示す図である。第8図は、従来技術Cにロルカセナイドを投与した状態を示す第4図であり、第9図は、第8図における第4図である。

[illegible]

セットを容易にしている。

カセリIDの777番は25歳から一日のヌ  
 +130（新四）に満ち込んだ彼に、おすに  
 スパイササ、スパイ25歳と決定する  
 ことにより、本格的にカセリIDとカセリID  
 を提供する。そして、本四に示すように、彼  
 本格的に提供開始に就くようのカセリIDを  
 提供し、しめる提供開始180日間のいわ  
 カセリIDと決定するので、本格的に提供

8

半段の一折である。

また、焼付の強度は1と、1/062と、耐腐蝕強度は3と、 $\gamma$ ライバ54と、配管強度は5と、カバースイッチ40a、40bと、記載へ、 $\gamma$ 0bとを有する。

製作回数61は、提示題26を提示するとともに、制作4・27から各題の指示を受けるものである。提示題26は、制作手順、エラー提示、思考・文を提示等のもので構成を指示するのである。1/062は、記憶シート有無表出せんす

(たとえ反斜型センソ) 13 a, 16 a, 配係  
 ワー1標地山センソ13 b, 16 b, カバー  
 ワー40 a, 40 b, ワーエグゼンサ7, カ  
 セン1標地山センサ22, ソノワー14標地山セ  
 ソン19から番号を受けるものである。カバース  
 ワー40 a, 40 bは、それぞれカバース  
 の両側を輸出するタイプである。

フライバグは、配線モジュール、フットモ  
 ジュール、14a、カプセルモジュール、排気モ  
 ジュール、インフレーターモジュール、予備線

送せ、そのものを調製するものであり、それぞれは、図示しない郵便物送付手段によって、それぞれ、ブレンボロー8a、ブレイドロー9対11、12、カックラ、牧野ロー9対10、インソールロー17a、予備送付ロー対6に郵送力を伝えるものである。

次に、上記実地例の動作について説明する。  
 所しは図は、上記実地例において、記憶シート  
 をセッとする動作を示すフローチャートであ  
 る。

す。記號——ト4をセツトする場合、カパー  
停止開始後728a、28aを動作して、72  
73a、33の停止を解除し、第4圖に示すよう  
に、カパー、Bを開放し(51)。本体Cの記  
號——ト4が第4圖に記號——ト4を欠失  
し、その——ト4を補充を、——ト4がF12に到  
て727aが730—58aの上を越え、カパーと移  
動730—58aとの間を通り第4圖外を引回し  
て730—14をセツトする(52)。

•

170-54-1728.

まず、第2の配賦シート5を繰越外から投入させ（S10）、配賦シート有難輸出センサ16aが配賦シート5の投入を検出すると（S11）、

74-1-10-1-1、予備選返ロー対6、7  
5-1-10-1-8を逆回転(第2図の矢印方向と  
逆回転)し、記録テープを、74-1-10-1-1  
1と予備選返ロー対6との間の中間位置付近  
の付帯位置まで増反す(S12)。そして、74-  
1-10-1-14を回転して記録テープ5を搬送

し (S13)。ワード列始めエのセツツ7にあるセと送り込む (S14)。次に、距離シート5の距離を計算する。つまり、カセツと輸出イナツとをカロールシートカセツとDを抽出しなければ、距離シート5がカセツシートであると判別する。

配属シート5がカマシートであれば  
(S15)、シート5の搬送を停止し(S19)  
てそのまま待機状態にし、配属シート5がロー  
シートであれば(S15)、リターフロー付

特開平 1-145961(4)

この初期化を行なう場合、まず「 $\pi$ 」-「 $\rho$ 」-「 $\sigma$ 」列11、予備選別「 $\rho$ 」列6、「 $\pi$ 」-「 $\sigma$ 」-「 $\theta$ 」-「 $\alpha$ 」列10を第2図に示す方向に同時に回し、選別「 $\pi$ 」-「 $\theta$ 」を所定（たとえば「 $\pi$ 」-「 $\rho$ 」）列11から選別「 $\rho$ 」-「 $\sigma$ 」までの選別差を同じくするだけ回す（55）。

「 $\sigma$ 」-「 $\rho$ 」の選別「 $\rho$ 」-「 $\theta$ 」を「 $\pi$ 」列（56）、「 $\pi$ 」-「 $\theta$ 」の選別「 $\rho$ 」-「 $\theta$ 」を選別「 $\rho$ 」-「 $\sigma$ 」列10によって投機外に抽出すると、プラチナ「 $\rho$ 」-「 $\theta$ 」-「 $\alpha$ 」列10から、「 $\pi$ 」-「 $\rho$ 」-「 $\sigma$ 」列11を上記方向に回し、選別「 $\pi$ 」-「 $\theta$ 」の差を四倍収容まで増大（57）、検定初期にす。

次に、設置外部から図2の起屋シートが侵入した場合の動作について述べる。

第12図は、上記実施例において、装置外部から第2の配線シート5が投入する場合の動作を示

1

14の他に子機搬送ローラ16、マラチンローラ8、接紙ローラ10を回転し、シート先端が位置外（接紙ローラ10よりも外側）に至るまで搬送ローラ5の搬送を行なう（S16）。

そして、カンナによって配管ユニットをカンナ（S117）、カンナ体の配管ユニットを接続する。このようにして、図10の配管ユニットは、プラテッポロ30a、予備配管ロータ9、ケーシングロータ14と直接接続し、配管ユニット15は、ケーシングロータ14と予備配管ロータ9との間の所定の付帯収容まで接続し（S118）、付帯収容にする。

ここで、インフレーション率17.4は、つまりローラのものを例として正価、定価行なう。定価改定には定価シートと定価改定の動をインフレーション率17.4が行なうので、定価改定において、定価シートに算出し、インフレーションの動作説明を部分的に省略する。17.4の動作説明における定価動作については、上段表裏における定価動作について説



完全に独立して開閉可能になり、インダクタロー  
ム 17 a、記録シート 4 a のそれぞれを独立し  
て交換することができる。

#### 【発明の効果】

本発明によれば、整備されていない記録シート  
に記録する操作が容易であり、ロール状の記録シ  
ート以外の記録シートに記録できるという効果を  
得る。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の一実施例を示す斜視図であ  
る。

第2図は、第1図の前面図である。

第3図は、上記実施例において、第1、第2の  
カバーを開放した状態における側面図である。

第4図は、第3図の前面図である。

第5図は、上記実施例において、第1カバーの  
を開放した状態の前面図である。

第6図は、上記実施例において、外部から第2  
の記録シートを平置してよって投入させた場合の

2 3

説明図である。

第7図は、上記実施例において第2の記録シ  
ートとしてロール状に巻回したロールシートを捲  
き出した場合のカセットの一例を示す図である。

第8図は、上記実施例において、装置本体に第  
2ロールカセットDを配設した状態を示す斜視図  
である。

第9図は、第8図の前面図である。

第10図は、上記実施例を駆動する駆動部のア  
ッパ図である。

第11図、第12図、第13図(1)、  
(2)、(3)、(4)は、上記実施例におい  
て、記録シートのセリから記録動作までを示す  
フローチャートである。

第14図、第15図は、本発明の他の実施例の  
説明図である。

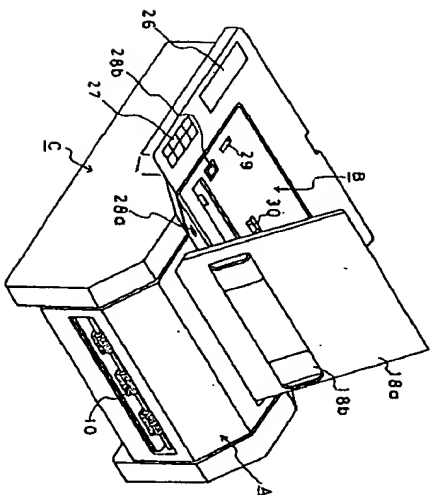
第16図は、従来例の説明図である。

A、B…カバー、

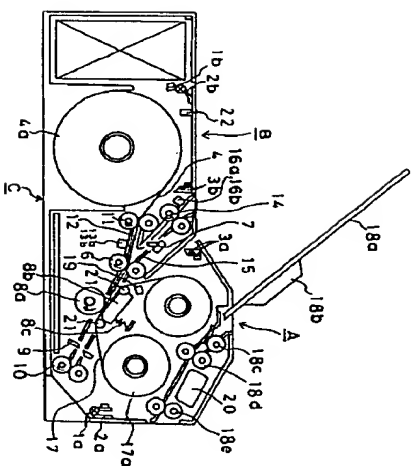
C…本体、

2 4

第1図



第2図

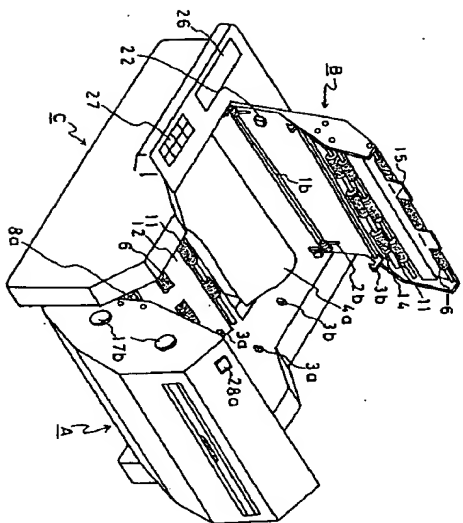


特許出願人 ヤマハ株式会社

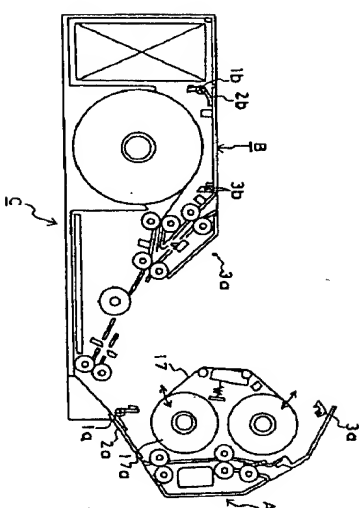
代理人 川久保 研一

2 5

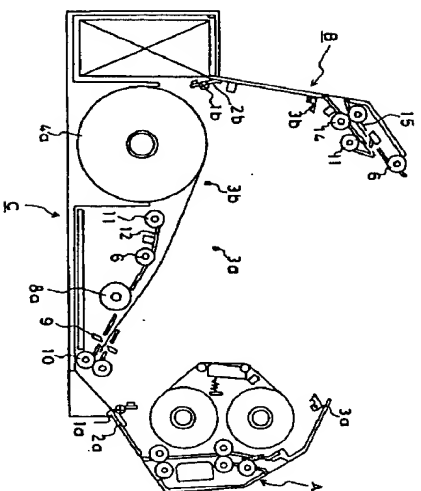
第3図



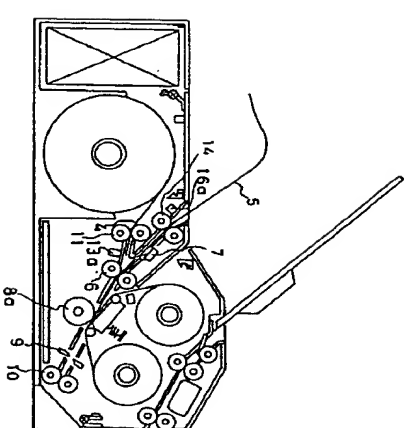
第5図



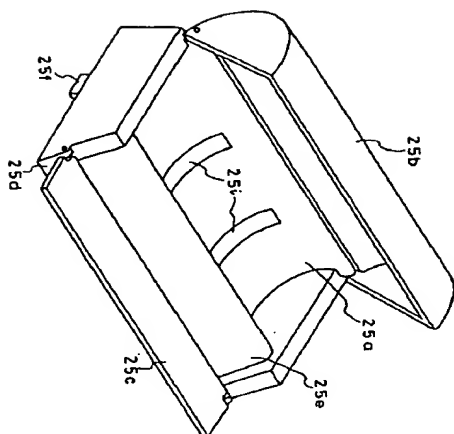
第4図



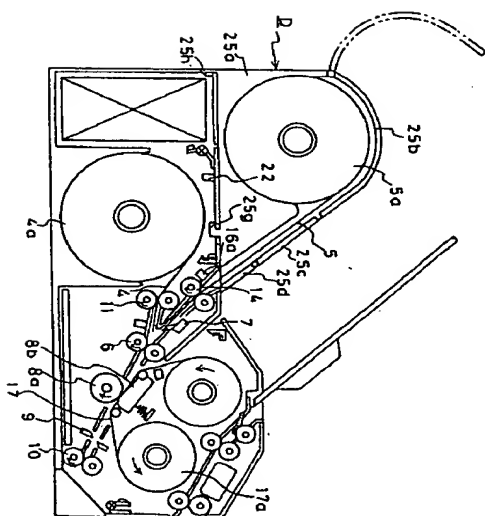
第6図



第7図



第9図



第8図

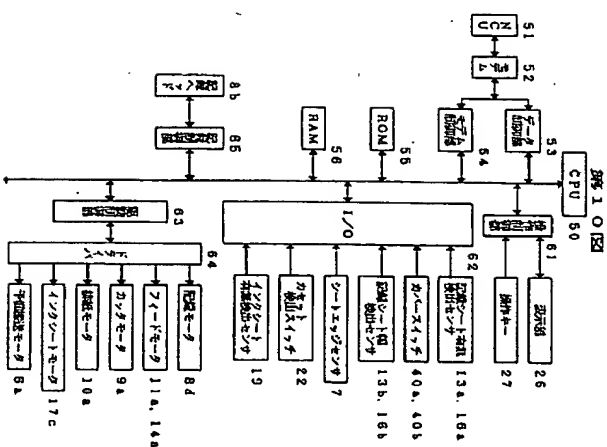
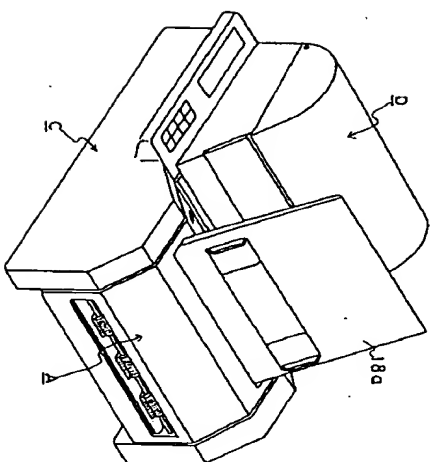


図 11 図

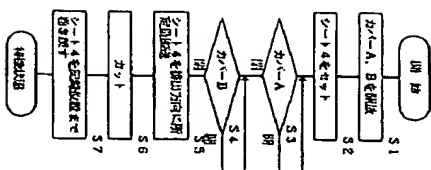


図 13 図 (2)

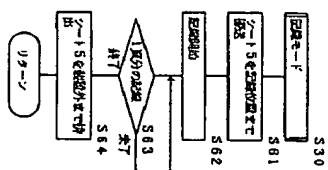


図 12 図

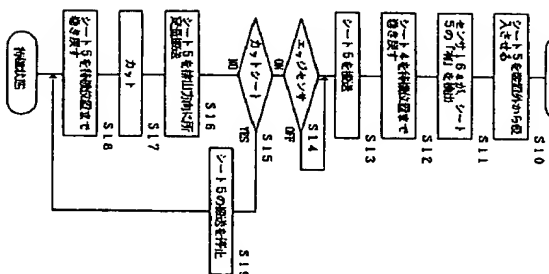


図 13 図 (1)

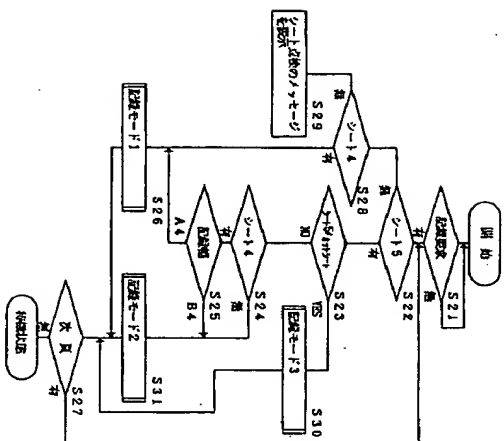
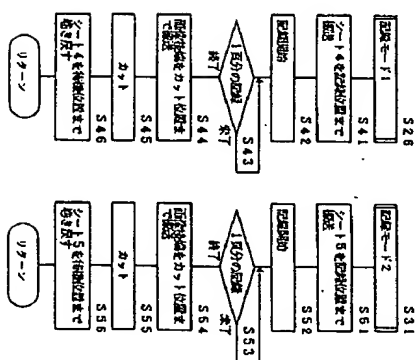
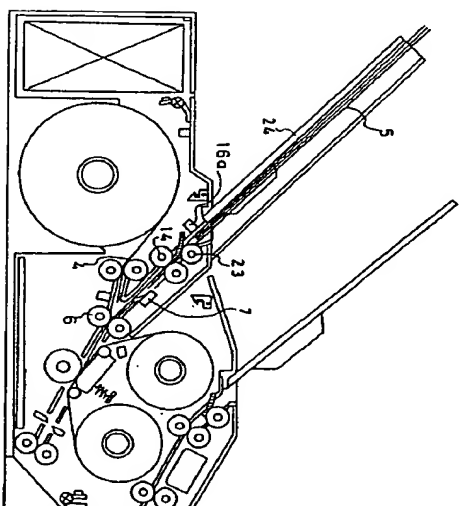


図 13 図 (3)

図 13 図 (4)

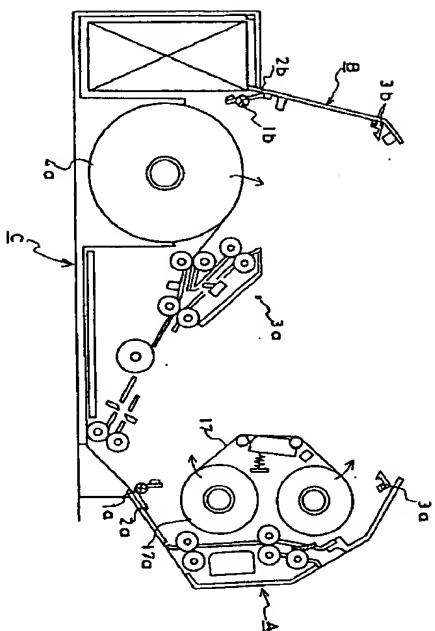


第 14 図





第15圖



第16圖

